

メディアも戦場の一部だ

▼情報操作の裏側

●マスメディアも操作されていないか

ある南海の孤島でドイツ人とフランス人が仲良く暮らしていた。しかし、月に一度配達される新聞で独仏戦争のことを知った途端、2人の関係はにわかに険悪になった。これはウォルター・リッブマンの名著『世論』にある挿話だが、マスメディアの発達によって私たちは白らの目で認知する環境よりも、新聞、ラジオ、テレビが提供する情報をより重視し、その情報に依存するようになったことを的確に物語っている。

しかし、私たちの生活にとってそれほど重要な存在となったマスメディアが、陰の力によって操られているとしたらどうだろうか。とりわけ善玉、悪玉という単純図式と情緒的表現を好むテレビはそのターゲットになりやすい。例えば、同時多発テロ後のアフガニスタン攻撃の際には節目節目にテロの首謀者とされるビンラディンのビデオ映像が世界に

流された。タイミングが良すぎはしないか。

その一方で普段は人権を叫ぶ米国がアフガニスタンでバンカーバスターやデジカッターとよばれる非人道的な無差別大量殺戮爆弾を気前よくぶつ放した。アフガニスタンでの戦死者はとうに米国での同時多発テロの犠牲者の数を超えているはずだが、そのニュースは伝わってこない。

●戦争は情報操作の歴史

歴史的に、戦争は常に国家あるいは権力者による情報操作を促進させる結果となってきた。古くは十字軍が遠征の際に、敵であるイスラム教徒の残虐行為を意図的に誇張することによって味方の敵愾心をあおったという例がある。

現代では、第1次世界大戦のあと總統ヒトラーが率いたナチス・ドイツがラジオを巧みに利用して国民に反ユダヤ主義、反共主義を浸透させたことはよく知られているが、第2次大戦ではナチス・ドイツだけでなく各国が

しのぎを削ってプロパガンダ戦略によって事実を覆い隠す情報操作を活発に行っている。

公式発表では軍が勝利したかのような情報操作が行われた日本では、一般国民は敗戦まで実際の戦況を客観的に知る術はなかったのである。

●世論を左右した少女「ナイラ」の証言

近年、最も巧みなメディア操作が行われたのは湾岸戦争だろう。思い出しているだろうか。軍事介入に消極的だった米国のムードを一変させたのは公聴会での15歳のクウェート少女「ナイラ」の証言だった。身元を秘密にされたこの少女は、イラク兵がクウェート市内の病院で保育器から赤ん坊を取り出し、「冷たい床に放置して死亡させたのを目撃した」と涙ながらに訴えた。この証言で米国の世論は一気に軍事介入に傾き、米国は91年1月、湾岸戦争へ突入していった。

しかし、戦争終結後、思わぬ事実が明らかになった。米国で展開された一連の反イラクキャンペーンはクウェート政府に雇われた米PR会社の手によるものであり、少女ナイラの証言もやらせだったのだ。その情報操作を指揮し大金を手にした人物にフロリダで会った時、彼は私にこう言った。「あの子の話が

嘘かどうか、私には言えないね。ただ、あのキャンペーンは実にうまくいったよ」

●軍の勝利はキャンペーンの勝利

以前は軍がやった情報操作を、今はハイテク装備したPR会社が請け負うケースが増えます。事実とフィクションの区別がつかない

▼ネットワークセキュリティとコンピューターウイルス

毎日世界中で数十、数百の新種のコンピューターウイルスが生み出されていると言われるが、世界を騒がした悪名高いものがメリッサウイルスである。このマイクロウイルスによって深刻な被害を受けているのが、マイクロソフト社製のソフト「Outlook Express」を利用する米国の会社である。このマイクロウイルスは、ボルノ関連情報のはいった感染文書を企業内電子メールシステムを介してばらまくという種類のものである。Mellisaの開発者を追っていたFBIはAmerica On Line(AOL)から得た情報を手がかりにニュージャージー州在住のプログラマー、デビッド・L. スミス容疑者を逮捕した。

日本においても平成6年に、あるホテルの

用語解説

コンピューター・ウイルス

一種の情報テロであり、コンピューターのソフトやデータに害を及ぼし、人間に感染するウイルスと同じように伝染・潜伏・発病する機能を持っているため、このように名づけられた。

コンピューター・ウイルスにはプログラムを実行すると発症する「ファイル感染型」、有益なプログラムに見せかける「トロイの木馬型」、ネットワークを利用して自己増殖する「ワーム型」などがある。その症状は単にメッセージや画像を表示するだけのものもあるが、ハードディスクを破壊したり、個人データの書き換えや不特定多数へ配布、個人アドレスから電子メールでウイルスを伝染させるような悪質なものが増えている。またウイルスよりも増殖力が強力なコンピューター・ワームというプログラムもある。

世界はグローバル化やIT化が推進され、インターネットやLANが普及したため感染も広がっていて、2001年度の感染被害額は全世界で200億ドル近いとの報告もある。

くなっている。旧ユーゴ紛争でも、ボスニアと契約した米国のPR会社がセルビアの残虐行為を誇張した情報を報道陣に意図的に流したことが明らかになった。皮肉にも、そのキャンペーンの成功によって会社は米PR協会から表彰されたのだ。今やメディアも戦場の一部なのである。

(蟹瀬誠二)

一室から公衆回線を利用して、A銀行のオンラインシステムに侵入し、他人の口座から犯人の口座に合計16億3000万円もの送金をさせるという事件がおこった。共犯者はコンピュータープログラマーや元A銀行員であり、専門的な知識と内部情報に基づき綿密な計画を立てて実行したようだ。この事件は嚴重なセキュリティを誇る銀行オンラインシステムでさえも、条件しだいで突破でき、重大な社会的影響を生じさせるというネットワークセキュリティ問題である。

こうした犯罪に対してわれわれができることは、自己防衛がなく、出所不祥のファイナルは開かない、ウイルススチッカーを使用するといった最低限の対策は講ずるべきである。

(伊藤裕康)

メガメディアと世界の高級紙

▼いわゆる世界の高級紙でもバランスのよい報道に徹しているのだろうか

●欧米や日本のニュースが世界を駆け巡る

世界では毎日8千紙以上の日刊紙が発行されており、総部数は4億万部にもものぼるが、アメリカ、日本、EU以外の国が紙数、部数とも半数を超える。ところが、実際には世界を動かすこの地域の国で発行される新聞やマスメディアが発信するニュースが世界を駆け巡る現実がある。

左の表を参考にしながら、現在の世界を動かす高級紙、マスメディアを紹介しよう。

大國アメリカの5大紙と、イギリスを発行人地とする全国紙3紙などは有力紙として、日常的に日本のマスメディアに登場するからよく知られている。3大ネットワーク、マードックのフォックス、CNNという映像メディアがこれに加わり、BBCワールドサービスとともにグローバルな展開で世界へアメリカ産情報を送り出している。

イギリスをのぞくヨーロッパでは、ドイツ

のF A Zや『デイ・ヴェルト』、フランスの『ル・モンド』や『フィガロ』、イタリアの『コリエレ・デラ・セラ』、『ラ・レプブリカ』といった高級紙がひととき目立つ。

●高級紙の条件

だが、昨年の同時多発テロ事件やアフガン攻撃に見られる論調を分析すると、国益とアメリカ主導主義のプロパガンダに染まり、かつてベンタゴンペーパー事件(71年)やウォーターゲート事件(74年)に見られた新聞は権力の監視、対峙するメディアであるというところから離れた存在になったかのようである。これらの高級紙は、一般的に言えば、発行国において一定以上の読者層(エリート層、あるいは国を動かす、動かしている人々)に読まれている。そこに国内外を問わず世論形成や政策決定に関し、1本の国際ニュース記事が影響を与えている、もしくは与えられているという表、裏の状況が存在する。従って、国際ニュース量の大小は高級紙として認

められるかどうかの基準として求められるのである。

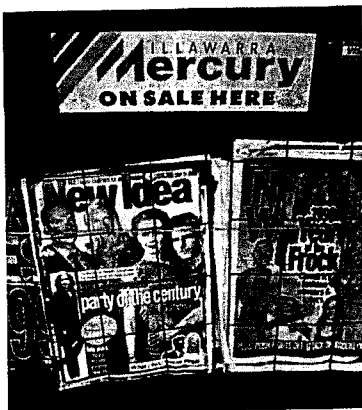
●国益は公共の利益と相容れない?

注意しなければならないのは、90年代後半から、マスメディアのグローバルな展開が激しくなり、新聞題号や放送局名などが違っても、実は同一オーナーの所有、系列であることが目立ち始めた。メガメディアの登場である。そこで流れるニュースはある種の意思に沿った形で表出することもある。競争関係にあるグループのニュースや広告が減り、仮にニュースとして取り扱っても、メガティブな扱いをするとか、かわりに自グループ関係のポジティブなニュースを倍にするとか、といった傾向が垣間見られる。

メディアに載る国際ニュース(外国ニュース)の特徴は、①すべての国内・メディアシステムは自国出来事や登場人物を強調しがちで、②米国と西ヨーロッパがどの地域でも常にニュースとなり、③その次に紛争・災害な

ど異常な出来事との現場(hot spot)の記事であり、④第三世界の国々は社会主義国同様そのホットスポットにない限り、国際ニュース報道においてもほとんど登場回数の少ない地域となり、⑤国内通信社、自社特派員が国際ニュースにおける主要な情報源であり、国際ニュース通信社がそれに次ぐ、といわれる。従って、一国を代表するメディアが国際ニュースをバランスよく報道しているかという、疑問である。ニュースの近代化の過程で、とくに戦争や紛争といった国家、地域、民族の対立などにおいて際立って「国益」「ある一定の利益」が優先されると、ジャーナリズムにおける事実性や客観性、公共の利益と矛盾するニュースの流れが現実にあることに、読者は気づかねばならない。

(鈴木雄雅)



世界のメディア

世界的なメガメディア・グループ

企業名	本拠地	主要メディア	日本での影響
Disney-Capital Cities-ABC AOL Time Warner-Turner News Corporation	米 米 英米豪	放送、映画、テーマパーク 放送、CNN、雑誌、映画、音楽産業 新聞、雑誌、書籍出版、放送、映画(Fox) テーマパーク、スポーツチーム、リーグ	NHKとニュース協定、TDL スカイパーフェクTV
Bertelsmann General Electric-NBC CBS Inc. Newhouse/Advance Publication Viacom Microsoft Matra-Hachette-Fillpacchi	独 米 米 米 米 米 米 仏	書籍出版、音楽、放送 放送、GE、航空機、車両、投資、保険など 1995-98 放送、99 Viacom傘下 新聞、書籍、出版、CATV 放送、映画(Parmount)、ビデオ、テーマパーク コンピュータソフト、データベース、放送 雑誌、書籍出版、ラジオ、マルチメディア、航空機 車両、宇宙産業	音楽 日本テレビ(読売新聞)とニュース協定 TBS(毎日新聞)とニュース協定 OS、コンピュータソフト、ゲーム 婦人画報社
Vivendi Universal Gannett Tele-Communications Inc. (TC)	仏 米 米	映画、テーマパーク 新聞、放送 CATV、米系を含めて多くの国際企業と衛星、 通信、ニュース配信分野で合併	USJ USA Today発行

D. Alger (1996) MEGAMEDIAから修正加筆して作成
放送はラジオ、TV地上波、空中波(衛星)、CATVなどを含む。映画はメジャー、製作、供給などを含む。

各国を代表する新聞

地域	新聞名(創刊年)	発行部数	所有主など	特徴など
北米 アメリカ	New York Times(1851)	1,097,000	NYTグループ	全米に20紙以上の新聞、放送、 情報サービス、新聞用紙製作会社 などをもつ
	Washington Post(1877)	762,000	WPグループ	Newsweek(510万部)
	USA Today(1982)	1,693,000	Gannett	世界主要地域で現地印刷
	Wall Street Journal(1889)	1,763,000	Dow Jones, USA	世界主要地域で現地印刷 NBCと提携してCNBC 全米で新聞所有 Chicago Tribune(66.2万部)
カナダ ヨーロッパ イギリス	Los Angeles Times(1881)	1,033,000	Tribuneグループ	保守系
	Globe and Mail(1844)	334,000	Thomsonグループ	経済紙、世界各地で現地印刷発行 中立
	Daily Telegraph(1855)	1,001,495	C. Black(Canada)	新聞、雑誌、書籍出版、放送、 映画(Fox)、テーマパーク、 スポーツチーム、リーグ
フランス	Financial Times(1888)	487,651	Pearson	本拠地はパリ、世界各地で発行、 日本では朝日が提携
	Independent(1986)	225,010	Newspaper Publishing	保守系
	Times(1875)	713,530	News UK	欧州大陸最大の大家紙 Bild(439万部)も発行: Spiegel
ドイツ	International Herald Tribune(1887)	630,000	NYT/WP, USA	保守系 リベラル スポーツ紙も発行 地方紙所有
	Le Monde(1944)	393,000	R.エルサン系	
	Figaro(1823)	361,000	Axel Springer Verlag	
イタリア	Die Welt(1946)	251,389	FAZ	
	Frankfurter Allgemeine Zeitung(1949)	408,000	Suddeutscher Verlag	
	Suddeutsche Zeitung(1945)	434,000	RCS Editori	
スペイン オセアニア オーストラリア	Cornere della Sera(1876)	718,000	Mondadori-L'Espresso	
	La Repubblica(1976)	646,000	News Corp.	
オーストラリア	ABC(1905)	300,000		
	The Australian(1964)	122,500		

ABC UK February 2002
WAN, World Press Trends 2001

▼通信社は互いにニュースのやりとりを行っている

通信社 (news agency) は、新聞社やテレビ、ラジオにニュースなどの記事を配信するのが仕事だ。日本には共同通信と時事通信の2大通信社がある。両通信社は戦前、国策通信社だった同盟通信社が戦後2つに分割されてできたものだ。

今回の米同時多発テロ後の米国などによるアフガニスタン侵攻の際には、各社はあまり首都カブールに特派員を常駐させていなかったが、こういう世界の注目を浴びるニュースが発生するところには、ただちに特派員を特派する。

だが、日本の特派員がいなくてところからの
ニュースはどうするか。外国の通信社からの
ニュースに頼ることになる。

世界の通信社は、米国のAP (Associated Press) といふ (United Press International) といふ

また、時事はAFPやロイターと提携、AFPからは写真のサービスも受けている。今回のアフガン関連ニュース写真で、〔AFP時

●世界の主要通信社 (ABC順)

AAP	オーストラリア
AFP	フランス（半官半民）
AGI	イタリア
ANP	オランダ
ANSA	イタリア
AP	アメリカ
AP・DJ	（APダウジョーンズ通信） アメリカ
APP	パキスタン（国営）
BERGA	ベルギー
DPA	ドイツ
EFE	スペイン
MTI	ハンガリー（国営）
OPECNA	OPEC通信
PA	イギリス
PANA	アジアでネットワークを組む写真通信社。時事通信社の傘下
PAP	ポーランド（国営）
PNA	フィリピン（国営）
PTI	インド
RP（ラジオプレス）	共産圏諸国の放送のニュースを配信する通信社（在東京）
UNI	インド
UPI	アメリカ（UPI・ES＝UPIエコノミック・サービス、UPIS＝UPIスポーツ・サービス）
VNA	ベトナム（国営）
VWD（合同経済通信社）	ドイツ

●通例、日本語表記の通信社 (50音順)

アナトリア トルコ（半官半民）
 アンタラ インドネシア（国営）
 イスラム共和国通信（IRNA） イラン
 インタファクス通信 ロシア
 ガルフ アラブ首長国連邦
 新亜 聯合通信、平壤放送のニュースを配信する韓国系通信社（在東京）
 新華社 中国（国営）
 タス通信 ロシア（国営）
 タンユグ ユーゴスラビア（国営）
 中国通信 新華社、北京放送のニュースを配信する通信社（在東京）
 中東通信（MENA） エジプト（半官半民）
 朝鮮中央通信 北朝鮮（国営）
 朝鮮通信 朝鮮中央通信、平壤放送のニュースを配信する北朝鮮系の通信社（在東京）
 ナイトリーダー アメリカ
 プレンサ・ラティーナ（PL） キューバ（国営）
 ベルナマ通信 マレーシア（半官半民）
 リツァウス デンマーク
 聯合通信 韓国
 ロイター イギリス（ロイターES＝ロイター・エコノミック・サービス）
 ロシア情報通信 ロシア

事」のクレジット入り写真がかなり掲載されたのをご記憶の向きも多いだろう。

ちなみに、記事で「AFP時事」はAFPの英語ニュースを各新聞社やTV局が自社で

（佐々木寛）

アジアでは、パキスタンのAPP、インドのPTI、UN I、ベトナムのVNA、インドネシアのアンタラ、中国の新華社（China News Agency）、台湾の中央通信社、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の朝鮮中央通信、マレーシアのベルナマ通信、韓国の聯合通信などがある。

中東では、OPEC通信のOPECNA、パレスチナ解放通信のWAF A、イランのイスラム共和国通信（IRNA）、アラブ首長国

英国のロイター (Reuters)、フランスの A F P (Agence France Presse)、ドイツの D P A などがあり、これらは日本の紙面でもよく目にする通信社だ。欧州や中南米ではイタリヤの A N S A、スペインの E F E などが多く常駐、キューバの プレンサ・ラティーナも活躍している。

このほか在京通信社として、アジアでネットワークを組む写真通信社のPANNA、共産圏の放送のニュースを配信するRPP（ラジオプレス）、聯合通信や平壤放送のニュースを配信する韓国系通信社の新亜、新華社や北京放送のニュースを配信する中国通信、朝鮮中央通信や平壤放送のニュースを配信する北朝鮮系の朝鮮通信があり、これを時事、共同が地方法紙にリライトして配信している。

●クレジットの種別

ところで、この2大通信社が配信したニュースが新聞紙上などで「バリ14日AFP時事」とか「ワシントン25日AFP共同」といったクレンジットで掲載されているのは周知の通りだ。

共同はAPとの提携関係が強く、〔AP共同〕の記事はAPの配信した英語のニュースを共同が翻訳して各新聞社に配信して掲載さ

出版業界はどのように活路を見いだすのか

▼オンライン書店の普及などIT革命の進行が、新しい出版の可能性を開くか？

●出版にも変質が求められている

「本が売れない」という。編集者自身、「どんな本を作っても、売れる気がしない」と、自信喪失状態だ。アイデア不足だけが原因ではない。長期的な構造不況なのである。IT革命が進行するなかで、多くの人がびとの関心はパソコンや携帯電話、ゲームソフトなどのディスプレイに向けられ、カネも時間もそちらに取られるため、能動的・知的なコミットメントを必要とする活字メディアは相対的に敬遠され、長期低落傾向にはベシミスティックな感じがつきまとう。『出版大崩壊』というタイトルの本もあった。書物の挽歌が鎮魂歌を奏でるべき、歴史的な転換期にさしかかっているのだろうか。

インターネットは、確かに「革命」の名にふさわしいツールではあるが万能ではないし（例えば、特定の単語で検索すれば、洗いざらいつけてはくれるが、用語の定義や意味の変遷まではまとめてくれない）、活字の利点は

多々あって、電子メディアのひとり勝ちと見える現状だけが今後増幅されるとは限らない。テレビが出現したとき、これで新聞も出版も壊滅的な打撃を受けると予測した者もいたが、ちゃんと共存している。今回も同じことだ。だが、出版が変質を迫られていることは間違いない。

●これからの出版の方向性

まず、ジョイントベンチャー的な共同進化である。インターネットでデータや原稿を集めた「2000年間で最大の発明は何か」（ジョン・ブロックマン編・草思社）は、世界中の学者や評論家が勝手な見解をメールで寄せたものをまとめた本だが、これからの出版の方向を示唆する興味ある試みだ。「インターネット・フォークロア」という諷刺文句の『世界がもし100人の村だったら』（マガジンハウス）は、メールでひそかにやりとりされていた寓話を本にして成功したケースだ。

この『・100人の村』もその類だが、

If the world were a village of 100 people
世界がもし100人の村だったら

著者：ハリー・ポッター

もしもたくさんのわたしたちが
この村を愛することを知ったなら
また間にあいます。



昔ならとても本とは呼べないような本がよく売れる。例えば、『チーズはどこへ消えた?』（扶桑社）、『The Blue Day Book（誰でも落ち込む日がある）』（竹書房）などは、15分もあれば読めてしまうが、よく売れた。厚い本がまったく売れないとはいえない（サミュエル・ハンチントンの『文明の衝突』（集英社）が売れたのは知的レベルの高さを示して心強いと思えたが、どうやら実際に読んでいる人は驚くほど少ない）。話題性があり、話が面白ければ、超ベストセラーも生まれる。

『ハリー・ポッター』シリーズは、世界で

るし、バスク語、エストニア語、ヘブライ語、アイスランド語、セルビア語など、マイナーな言語の版まであるから、その人気と普及度が推し量れる。

●パソコンの普及も構造不況の打破に貢献

日本で出版物が凋落した背景には、流通や定価（再販制度）販売のネックもある。電子

出版、オンデマンド出版、電子図書館（たとえば、日本ペンクラブで始めた「電子文藝館」）も広がってはくるだろうが、まだ黎明期だ。差し当たっては、公共図書館の在庫検索がかなりパソコンでできるようになったこと、そしてオンライン書店（左の一覧表）の普及が、出版低迷の現状打破にいくらか寄与するのではないかと期待している。

（仙名 紀）

Who Moved My Cheese?
チーズはどこへ消えた?

スペンサー・ジョンソン
Spencer Johnson, M.D.



☆主なオンライン書店・一覧 (URLの最初の http://は略)

紀伊国屋書店 Book Web	bookweb.kinokuniya.co.jp/
JBOOK	www.jbook.co.jp/
丸善 INTERNET SHOPPING	www.maruzen.co.jp/
本やタウン	www.honya-town.co.jp/
クロネコヤマトのブックサービス	market.bookservice.co.jp/
八重洲ブックセンター	www.yaesu-book.co.jp/
ネットダイレクト 旭屋書店	www.netdirect.co.jp
bk1	www.bk1.co.jp/
BOL	www.jp.bol.com/
ジュンク堂 Book Web	www.junkudo.co.jp/
イーエスブックス	www.esbooks.co.jp/
三省堂書店	www.books-sanseido.co.jp/
アマゾン(Amazon)Japan	www.amazon.co.jp/

*新刊本なら書店に並んでいるから、すぐに見つかる。やや古い本を探すときや検索したい場合（タイトルがうる覚えだったり、同一の著者の作品を時系列で調べる）には、オンライン書店が便利。よく利用するなら、会員（無料）になっておくとい。クレジットカード決済が普通。送料が必要だが、一定額を超えた場合、後発の組では送料を無料にしているところもある。

ハリウッドがリードする世界の映画

▼サイレントからCGまでの映画史百年と、映画産業の過去・現在・未来

劇的な進化を遂げた映画芸術

1895年、フランスのリュミエール兄弟がパリで世界最初の映画「工場の出口」を上映して以来百年余り、映画は他の芸術では考えられないほど劇的な進化を遂げてきた。サイレントとしてスタートした映画が「音」を獲得するまで約30年。1927年にトーキー第1作「ジャズ・シンガー」がアメリカで誕生する。「音」とほぼ同時に映画は「色」も獲得するのだが、それが見事な成果を見せるのは39年の「風と共に去りぬ」で、アカデミー賞でもこの年から撮影賞が「カラー」と「白黒」に分かれる（ちなみに、日本最初の総天然色映画は51年の「カルメン故郷に帰る」、ソ連は46年の「石の花」である）。

CGの導入で制作方法も変化

やがて50年代に入るとテレビが新たな脅威となり、対抗策として映画の大規模化が進む。52年には「これがシネマだ」と「3D立体

映画」が、53年にはシネマスコープ第1作「聖衣」が公開され、59年の「ベン・ハー」で頂点を極める。

一方、映画は初期からジュールジュ・メリエスによるトリック撮影など、技術的な工夫で観客を楽しませてきたが、39年にアカデミー賞に特殊効果賞が設けられ、68年の「2001年宇宙の旅」でSFXは芸術的にも地位を確立する。

その後コンピューター・グラフィックス（CG）の導入によって映画制作のあり方も大きく変化しつつある。

21世紀に入って、俳優を一切使わない映画「ファイナル・ファンタジー」が出現し、アカデミー賞に「長編アニメ作品賞」が新設され、ベルリン映画祭金熊賞に宮崎駿監督のアニメ「千と千尋の神隠し」が選ばれたことも象徴的である。

しかし、多くの映画ファンは、映画が今後「人間」を描き続ける芸術であってほしいと願っているのも事実である。

映画産業の繁栄

映画は芸術であると同時に、巨大な富を生み出す産業でもある。映画誕生からしばらく世界の映画市場を独占したのは映画発祥の国フランスだったが、ヨーロッパが戦場と化した第1次世界大戦を境に、その主導権はアメリカへと移る。その主力となったのは「国民の創生」（15）などの超大作を作ったD・W・



オスカー像の前で、筆者

グリフィスであり、無声映画の喜劇王チャップリンだった。

ハリウッドの優位性は現在も変わらず、世界中の映画館のスクリーンでアメリカ映画が幅をきかせている。アメリカでアカデミー賞が始まったのは、世界大恐慌の年1929年だったが、街に失業者があふれる中、不況に強いと言われる映画産業だけが繁栄を続けた。その後、32年にイタリアでベネチア映画祭が始まり、これに対抗してフランスでは第2次大戦後すぐの46年カンヌ映画祭が、51年にはドイツでベルリン映画祭が創設され、世界3大映画祭と呼ばれるようになる。

映画はスクリーンからテレビに

日本でも敗戦後、映画産業は急成長を遂げ、



第74回アカデミー主演男優賞テンセル・ワシントンと主演女優賞ハル・ベリー（共同通信）

■世界映画史年表

- | | |
|-------|--|
| 1895年 | フランスのリュミエール兄弟がパリで世界最初の映画を上映。 |
| 1914年 | 第1次世界大戦始まる。 |
| 1915年 | 「国民の創生」（D. W. グリフィス監督）空前の大ヒット。 |
| 1921年 | チャップリン、初の長編映画「キッド」発表。 |
| 1927年 | トーキー第1作「ジャズ・シンガー」がアメリカで誕生。サイレント超大作映画「ベン・ハー」配給収入記録達成。 |
| 1929年 | 第1回アカデミー賞授賞式（5月10日、ハリウッド） |
| | ニューヨーク株式市場大暴落、世界大恐慌。（10月24日） |
| 1932年 | イタリアでベネチア映画祭が始まる。 |
| 1937年 | 日中戦争始まる。外国映画の輸入禁止。 |
| 1939年 | 太平洋戦争始まる。アメリカ映画が日本の映画館から姿を消す。 |
| 1945年 | 終戦 |
| 1946年 | フランスでカンヌ映画祭始まる。 |
| 1951年 | ドイツでベルリン映画祭始まる。 |
| | 日本初のカラー映画「カルメン故郷に帰る」公開。 |
| 1952年 | 黒沢明監督の「羅生門」がベネチア映画祭で金獅子賞。 |
| 1953年 | アカデミー賞のテレビ中継開始、シネマスコープ第1作「聖衣」公開。 |
| 1958年 | 日本の映画館入場者数史上最高を記録（11億2745万人） |
| 1959年 | 「ベン・ハー」アカデミー史上最多11部門で受賞 |
| 1963年 | 「野のユリ」のシドニー・ポワチエが黒人初のアカデミー主演男優賞。 |
| 1965年 | 「サウンド・オブ・ミュージック」興行収入新記録。 |
| 1997年 | 「タイタニック」アカデミー賞11部門で受賞、興行収入新記録達成。 |
| 2001年 | 「ハリー・ポッターと賢者の石」興行収入新記録。 |
| 2002年 | 「千と千尋の神隠し」（宮崎駿監督）興行収入新記録、ベルリン金熊賞 |

最盛期の58年（昭和33年）の映画館入場者数は11億2745万人で今の10倍近く、映画館数は7496で今の3倍だった。その後、映画館の形態も変化し、現在ではシネマコンプレックスと呼ばれる複合型映画館が全体の半

数を占めている。しかも、今や必ずしも映画は映画館で観るだけのものではなく、VTRやDVDによる映画鑑賞が日常化し、テレビのある茶の間こそが最大の観客を持つ映画館となりつつある。（渡辺俊雄）